

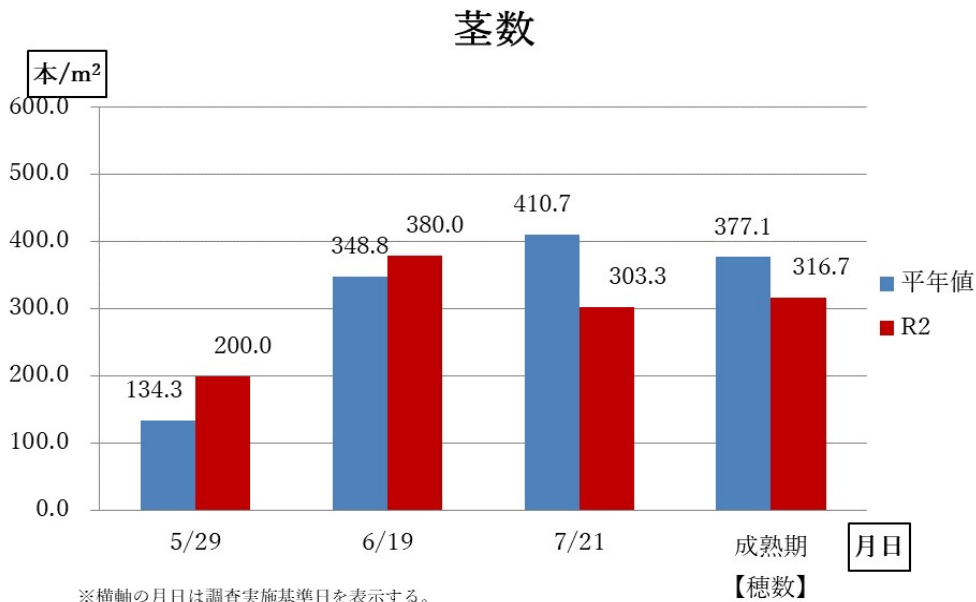
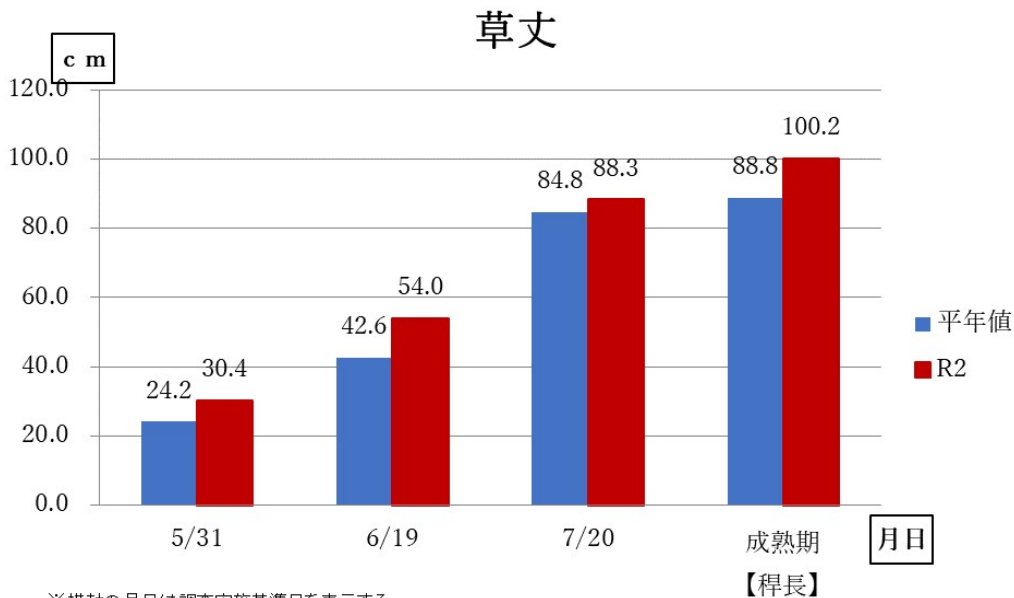
令和2年度 農作物（水稻）モニター事業調査結果

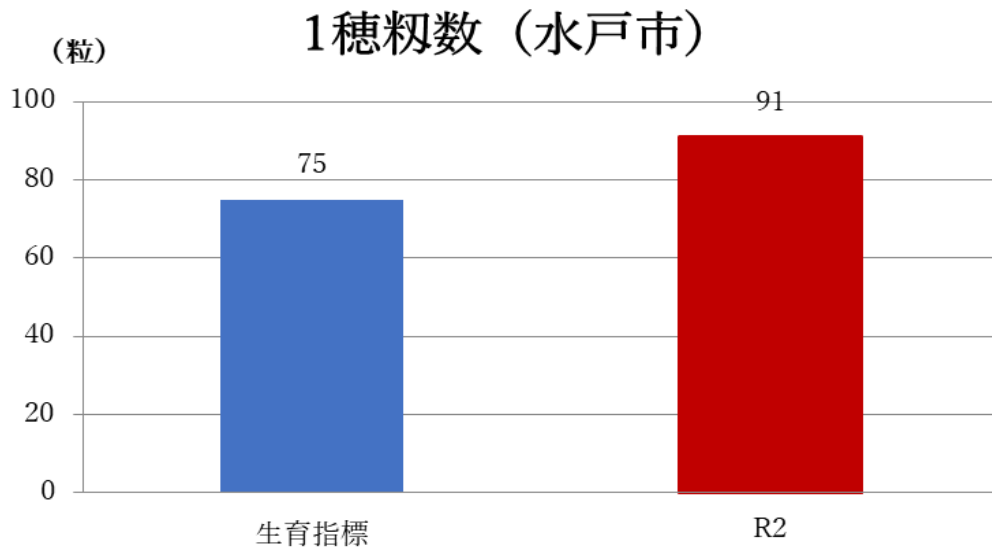
本県NOSA Iでは、水稻の生育状況を調査し、気象・病虫害発生状況などの基礎情報を継続的に観測して、県内水稻の作柄や被害発生状況の把握に務めています。

1. 水稻の生育および病虫害発生調査結果（第4回）

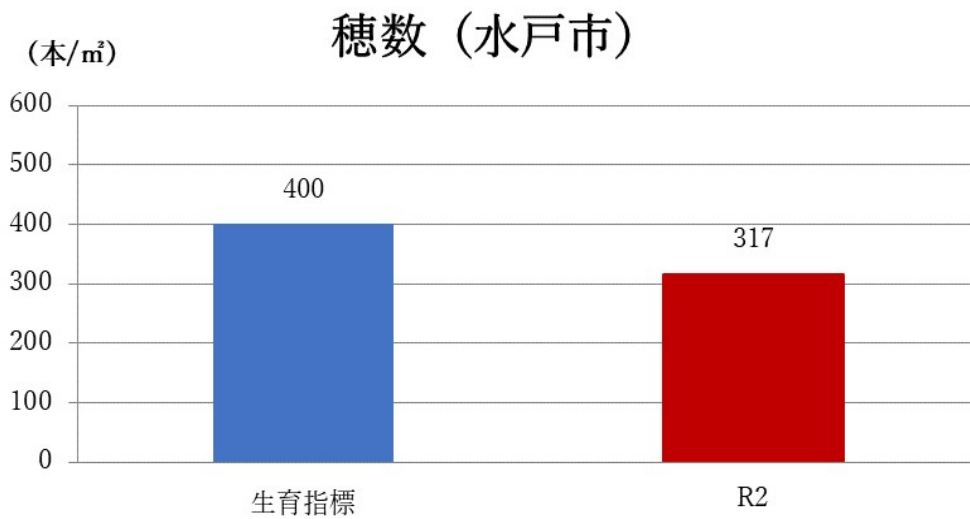
1) 水戸市の調査結果

調査場所	品種	移植日	生育調査日	収量調査日
水戸市	コシヒカリ	5月24日	9月14日	10月9日

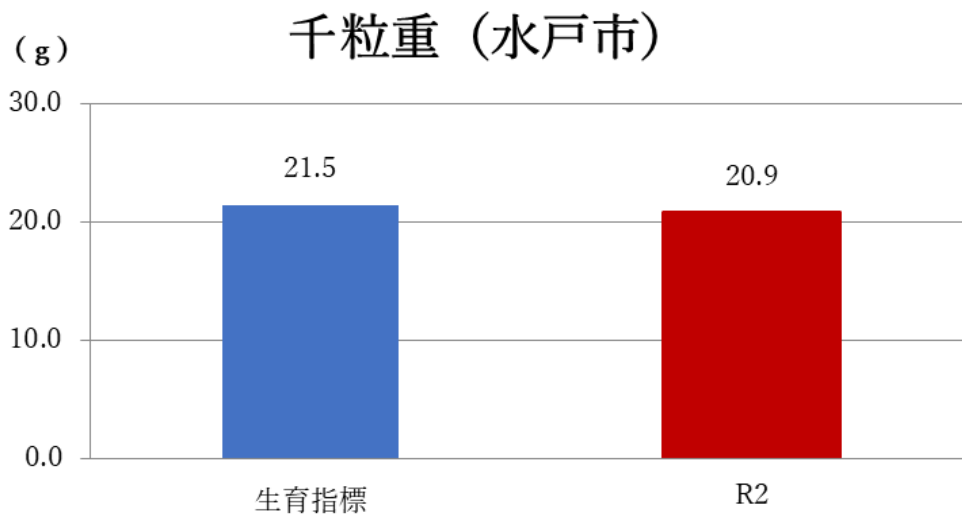




※【コシヒカリの生育指標】を用いた。

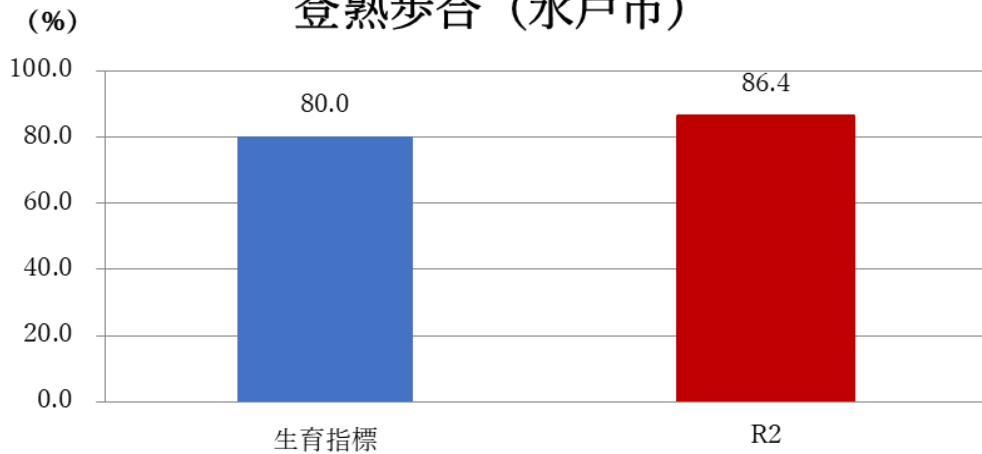


※【コシヒカリの生育指標】を用いた。



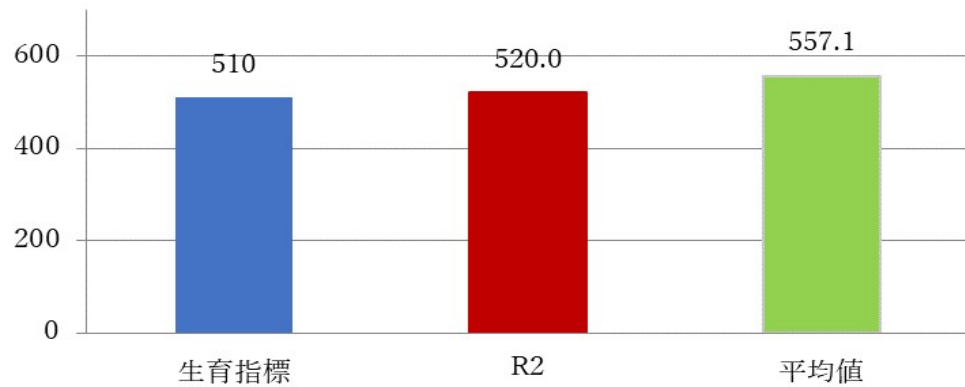
※【コシヒカリの生育指標】を用いた。

登熟歩合（水戸市）



※【コシヒカリの生育指標】を用いた。

収量構成要素単収（水戸市）



※【コシヒカリの生育指標】を用いた。

- 被害度は該当虫による葉の食害の度合い
- 平年値は平成 27～令和元年の 5 年間の平均値

○生育調査結果について

【生育状況：過去 5 カ年の平均値との比較】

草丈は、生育期全体を通して平年より高く、最終的に稈長も平年より高くなりました。

茎数は、5 月、6 月は平年並に推移しましたが、最終的な穂数は平年よりやや少なくなり、目標の㎡当たり 400 本に届きませんでした。

葉色は、6 月の調査では平年並みでしたが、最終的には平年より淡くなりました。

○収量調査結果について

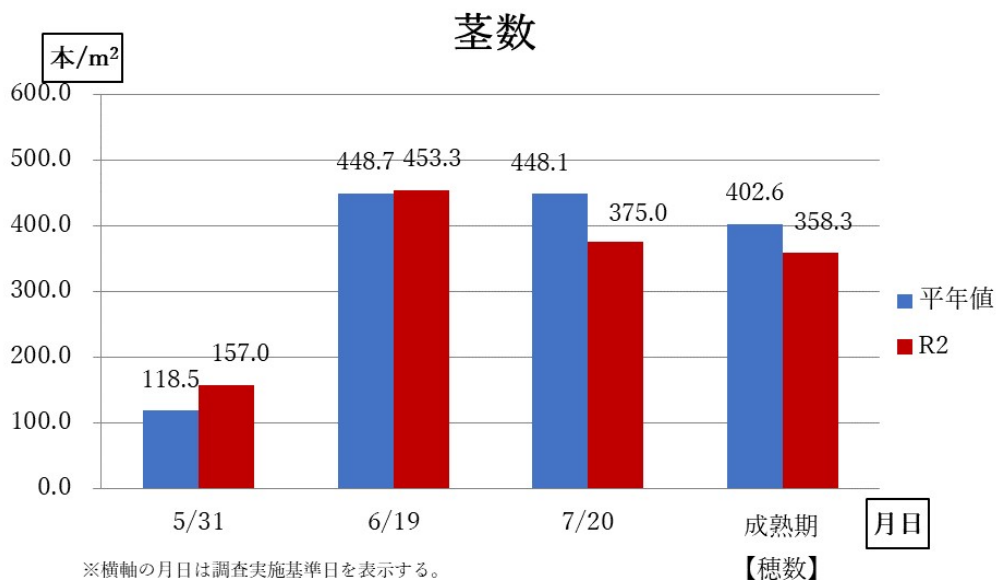
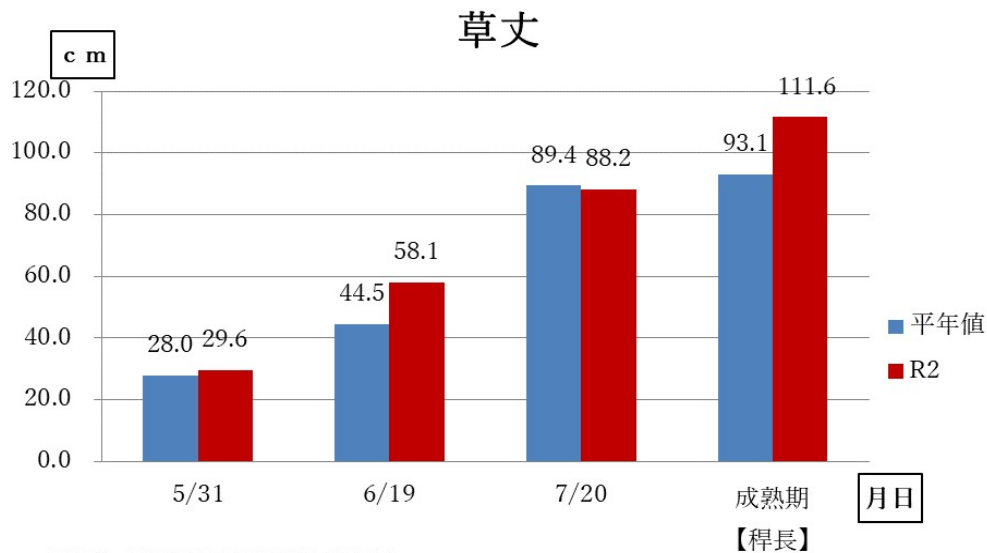
本年は、一穂粒数が多かったものの穂数が少ないことから、収量構成要素単収が平年値よりも低くなっています。

これは、7 月の天候不順の影響を受けて、有効茎になり得なかった分げつが多かった事に起因しています。8 月以降は例年にまして高温であったため、登熟歩合は良くなっています。

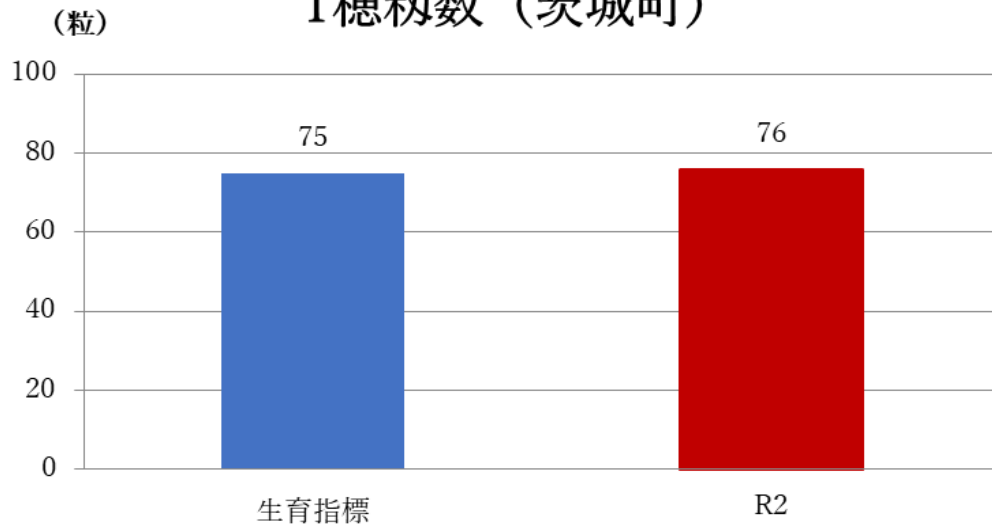
本年の高温のように近年、気候リスクが高まっています。このような中、安定した収量・高品質生産を確保するためには、基本技術の励行が重要です。

2) 茨城町の調査結果

調査場所	品種	移植日	生育調査日	収量調査日
茨城町	コシヒカリ	5月9日	9月14日	10月9日

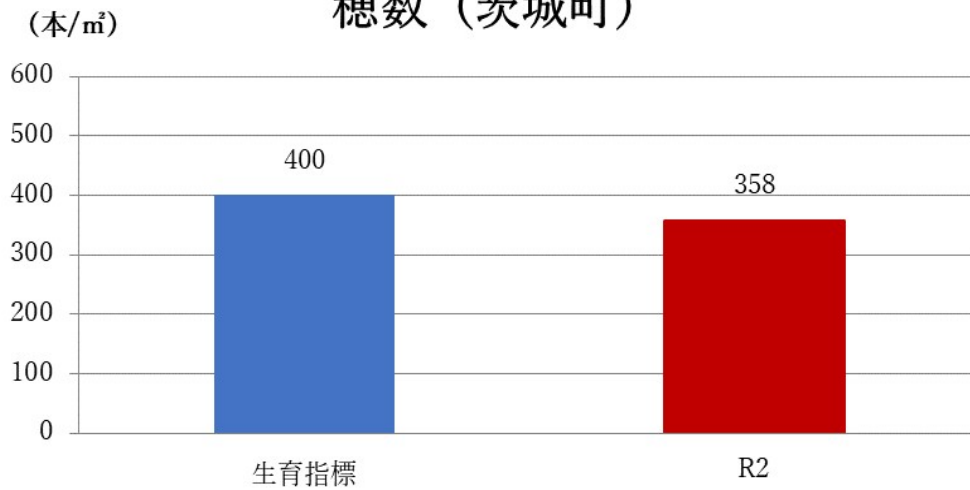


1穂粒数（茨城町）



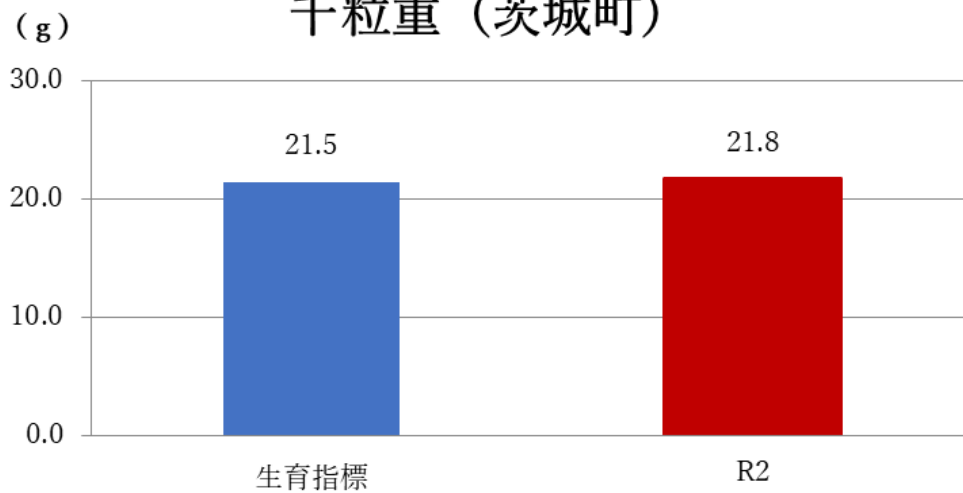
※【コシヒカリの生育指標】を用いた。

穂数（茨城町）



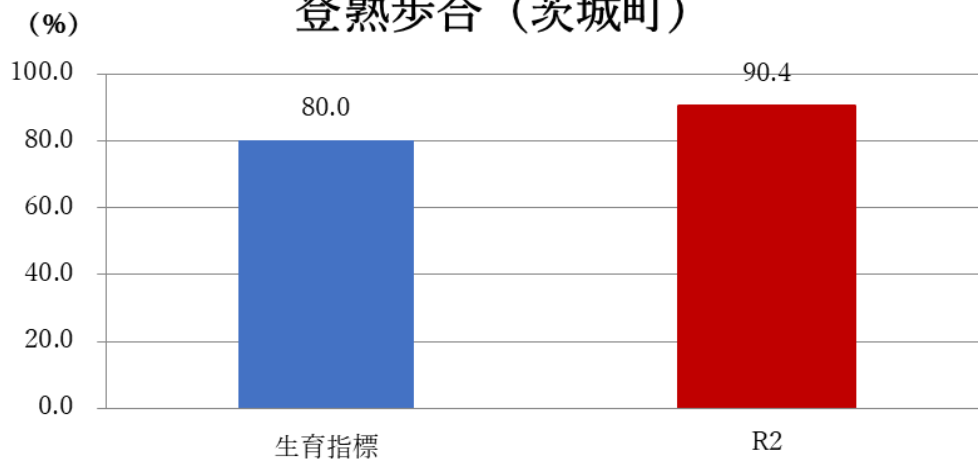
※【コシヒカリの生育指標】を用いた。

千粒重（茨城町）



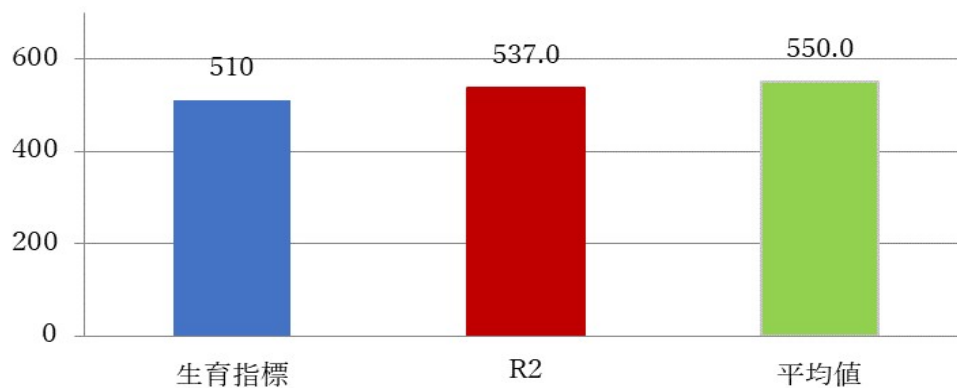
※【コシヒカリの生育指標】を用いた。

登熟歩合（茨城町）



※【コシヒカリの生育指標】を用いた。

収量構成要素単収（茨城町）



※【コシヒカリの生育指標】を用いた。

- 被害度は該当虫による葉の食害の度合い
- 平年値は平成 27～令和元年の 5 年間の平均値

○生育調査結果について

【生育状況：過去 5 年の平均値との比較】

草丈は、7 月の調査では平年より低かったものの、生育期全体を通して平年より高く、最終的に稈長も平年より高くなりました。

茎数は、5 月、6 月は平年並に推移しましたが、最終的な穂数は平年よりやや少なくなり、目標の㎡当たり 400 本に届きませんでした。

葉色は、6 月の調査では平年並みでしたが、最終的にはやや淡くなりました。

○収量調査結果について

本年は穂数が少ないことから、収量構成要素単収が平年よりも低くなっています。

これは、7 月の天候不順の影響を受けて、有効茎になり得なかった分げつが多かった事に起因しています。8 月以降は例年にまして高温であったため、登熟歩合は良くなっています。

本年の高温のように近年、気候リスクが高まっています。このような中、安定した収量・高品質生産を確保するためには、基本技術の励行が重要です。

2. 次回調査予定日

令和2年度の農作物（水稲）モニター事業調査は今回で終了です。来年度も引き続き調査を行い、県内水稲の作柄や被害発生状況の把握に努めてまいります。

茨城県農業共済組合連合会調べ
協力：茨城県農業総合センター